

## 2019年度 西東京市立学校 学校経営計画

学校名	西東京市立田無第二中学校	校長名	井上 雅子
-----	--------------	-----	-------

### 教育理念及び教育目標

本校は、いきいきと誠実に学び、心穏やかで思いやりのあるさわやかな生徒を育てる。「いきいきさわやかな二中生」を本校の伝統と誇りとして守り続けるために「誇れる上級生 学ぶ下級生」を常に掲げる。そして地域、保護者と協働し身に付けた高い学力と知性、豊かな心を確かなものにし、社会に貢献できる人材を育てる学校を創る。

#### <教育目標>

健康な心身と自主独立の精神を養う	・・・健康	<実践力>
誠実公正な態度と豊かな知性を身に付ける	・・・誠実	<問題解決能力>
敬愛奉仕の精神に富んだ人間性を培う	・・・敬愛	<人間関係形成力>

### 学校の特徴

#### 1 高い規範意識をもとに高い学力を身に付けさせる。

授業規律を大切にし、誠実に一生懸命に授業に取り組む姿勢を育てる。深く思考しグループ活動での対話により学びを深め意欲的に学ぶ生徒を育てる。特に全校で取り組む家庭学習ノートにより、主体的に学ぶ学習習慣を身に付けさせる。

また数学、英語ともに少人数授業で2学級を3コースに分けて実施し、習熟度別の授業と指導工夫改善により効果的できめ細かな指導を行う。

#### 2 地域、保護者と共に行う伝統ある学校行事と地域ボランティア活動の積極的な参加

運動会、合唱コンクールはもちろん、意見発表会、百人一首大会等、地域、保護者の参加により「地域の学校」を意識付ける。また地域行事（育成会、商店街等）への教員と生徒の積極的な参加を良き伝統とする。

#### 3 人権尊重教育の充実

都人権尊重教育推進校の指定2年目として人権課題に取り組み、共生社会を創る担い手の育成を図る。情緒障害等通級指導学級（K組）との連携を強め、年4回以上の面談で生徒に寄り添い、一人ひとりを大切にする学級・学年創りを実現させる。

### 目指す学校像

（学校像、児童・生徒像、教師像）

#### 【目指す学校像】 「いきいきさわやか 田無二中」

生徒の安心安全を保障し、生徒が明るく笑顔で学べる学校、地域の学校として、地域・保護者に信頼される学校

#### 【目指す生徒像】

- ・心とからだを鍛えるたくましい生徒
- ・誠実に学び努力する生徒
- ・敬愛精神に富み、地域・社会に貢献できる生徒

#### 【目指す教師像】

- ・教育愛に満ち、生徒の成長と発達に責任をもつ教師
- ・生徒の様々な教育活動を支え励ます教師集団
- ・研修に励み学び続ける教師

## 学校経営の目標

### 1 中期経営目標（中間的課題）

#### （1）高い学力を目指す

授業規律を大切に誠実に一生懸命学ぶ生徒を育成し、高い学力を身に付けさせる。

#### （2）豊かな心と健やかな体の育成

高い規範意識を基に、認め合い、高め合い安心して学べ、一人ひとりが大切にされていることを実感できる環境づくりを実現し、豊かな心とたくましいからだを育てる。

#### （3）地域、社会に貢献できる人材の育成

地域との連携を強め、「地域の学校」として信頼される学校をつくる。

### 2 短期経営目標（1に基づく本年度の重点目標）

（1）「主体的・対話的で深い学びのある学習」によく対話しより深く思考する授業を実施し、生徒の思考力・判断力・表現力を育成し、高い学力を身に付けさせる。

（2）東京都人権教育推進校の指定校2年目として個々の人権課題に取り組み、互いに認め合い支え合う学級・学年・学校を創る。また西東京市が目指す健康応援都市の実現のため、基礎体力づくりで体力向上を図り、たくましい心と体を育成する。また生涯にわたりスポーツに親しみ自己の健康管理を主体的に行うことができる生徒を育てる。

（3）家庭や地域社会、関係機関との連携を深め、多くのボランティア活動等を通じて生徒自身が地域社会の一員であることを意識し、社会に貢献する気持を育てる。

## 具体的方策（短期経営目標を達成するための学校の具体的な取組）

### （1）高い学力を目指す

- ・全ての教員が主体的・対話的で深い学びのある授業の実現を目指した研究授業を行う。生徒の授業評価による授業改善をすすめる。 <生徒の満足度 85%以上>
- ・数学の少人数指導では個に応じた課題や指導を行い、知識・技能の確実な定着と思考力・判断力・表現力の育成を実現させる。 <都の学力調査正答率 3%以上アップ>
- ・英語では東京方式習熟度別少人数授業を実施し、知識、技能および思考力、判断力・表現力を伸ばす。 <都の学力調査正答率 3%以上アップ>
- ・全校で家庭学習ノートに取り組み、教員の毎日の励ましで「学びに向かう力」を育成し、自主的な学習習慣を確実に身に付けさせる。 <学習習慣の定着 85%以上>
- ・今年度より、3年生対象に12回程度、地域や教員退職ボランティア等の講師による数学、英語の学習教室を開催する。また全学年対象に英検合格対策を行い、生徒の学力向上を支援する体制を地域と共に確立する。

### （2）自分と他者を大切にす人権教育の推進

- ・都人権尊重教育推進校の指定校により人権教育を充実させる。様々な人権課題に取り組みすることで差別意識の解消を図り差別意識を解消させ人権意識を高めさせる。 <生徒意識調査で意識向上アップ>
- ・互いに認め合い支え合う学級、学年づくりを実現させ、定期的な面談、家庭学習ノートの点検等で不登校生徒および学校不適応生徒の減少を目指す。 <不登校生徒および学校不適応生徒の昨年比減少>
- ・人権教育、がん教育、オリンピック・パラリンピック関係の外部講師による講演会、保健体育の振り返りシートを活かした授業の充実で、自己の健康管理意識を高める。 <生徒意識調査で意識向上アップ>
- ・道徳科の授業では考え議論する授業を展開し、豊かな心と規範意識を育てる。
- ・K組での指導の充実と、教員相互および学区の小学校教員との連携を強化し、K組の特別支援教育のセンター的役割を強化する。

### （3）地域、小学校との連携を強め「地域の学校」づくりを推進

- ・小中で育てたい児童・生徒像の共通理解にたち、小学校への学習ボランティア、小学生の中学校の授業、部活体験等を充実させる。
- ・2年後の学区変更に伴い新しい地域との連携を確立するために、住吉小、保谷小との連携を推進強化する。